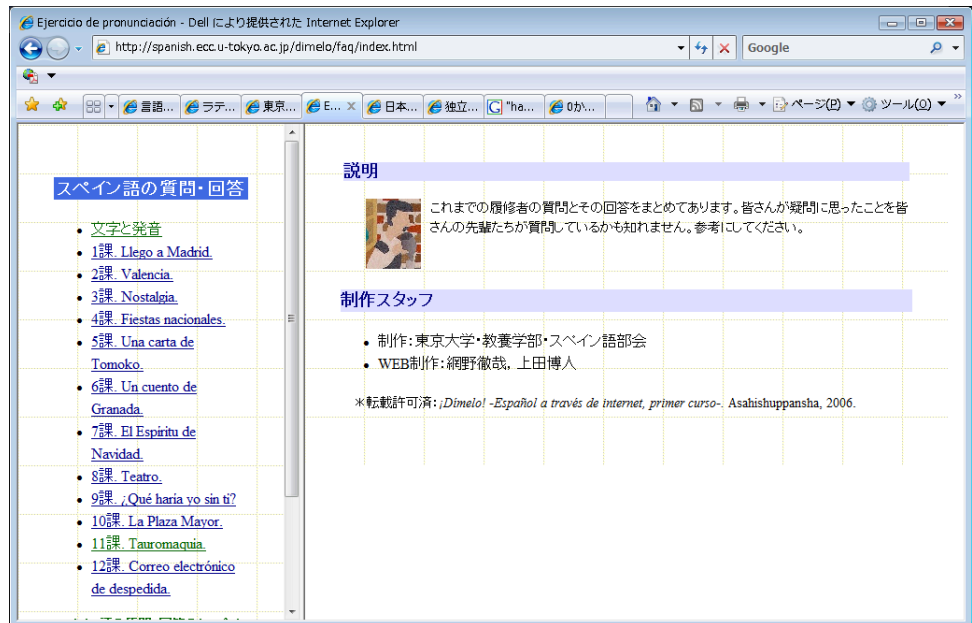




# スペイン語の現在完了形

上田博人



2004年から東京大学のスペイン語部会は総力を上げて前期課程の1年生に向けた初級スペイン語教材を作成している。インターネットを利用し、魅力的で学習効果のある教材を随時発信していこうと鋭意努力中だ。スタッフはラテンアメリカ、スペイン、フランスなどのフィールドで映像資料を集めて、それを教材化しつつある。夏学期に実施したアンケート調査によれば、未だ利用率は少ないものの、大方の好評を得ている。まずは一安心。

インターネットを利用するからには教材開発のための情報通信技術 (TIC, Tecnología de Información y Comunicación) に習熟しなければならない。部会はホームページを開設し、スタッフは毎日のように専用のメーリングリストで連絡したり意見を交換したりしている。今ではパソコンを使って音声 (そしてビデオの) の通信までも可能になった。モントリオールから東京へ、静岡からグラナダへ、まるで市内通話のような感覚で聞き慣れた声が届く。スペインやメキシコから十日遅れの便りを待っていた時代とは隔世の感がある。

スペイン語部会のホームページには学生の質問を受けつけるコーナーを用意した。スペイン語やスペイン語圏文化に関するさまざま



な質問が寄せられるが、部会のスタッフがその専門に応じて回答している。そして過去の質問は一カ所にまとめて誰でも見られるようにした。そこには、次のようなQ & Aがある。

Q. 英語では完了形を用いるときは過去を示すyesterdayなどは使えませんが、スペイン語ではどうなのですか？

A. スペイン語でもやはり、ayer「昨日」(=yesterday)などはっきりと過去を示す副詞は使えません。

これはちょっと気になる問答だ。この問題について部会メンバーはメーリングリストを使って情報・意見交換をした。はたしてスペイン語の現在完了の使用法は英語の現在完了と同じだろうか。実は、現在完了が過去のことを示すような例文に出会うことがあるのだ。私たちが常に参照しているスペイン王立アカデミーの文法書にも、現在との関係が心理的に密接であるときに過去を示す副詞+現在完了が使われることがある、という補足的な説明があり、Mi padre ha muerto hace tres años.「父は3年前に亡くなった」という例文を載せている。

それならば、過去のこと現在の自分に心理的に密接に感じられるときに「過去を示す副詞+現在完了」を使う、という説明は初級スペイン語のレベルで可能だろうか。フランス語ならばこのパターンはまったく問題なく使われるが、スペイン語ではどうだろうか。Googleで検索すると、"ayer fui"「昨日私は...行った」(点過去)は41万件ヒットするが、"ayer he ido"「昨日私は...行った」(現在完了)は3千件にすぎない。やはり、特殊なケースで使われているのだろう。でも存在しないわけではないので、「はっきりと過去を示す副詞は使えません」と断言するのは適切でなかったかもしれない。そこで、次のように補足することになった。

A. スペイン語でもやはり、ayer「昨日」(=yesterday)などはっきりと過去を示す副詞は普通は使えません。ただし、過去を示す副詞+現在完了は、現在の気持ちと深く関わるようなケースで、とくに話し言葉で使われることがあります。Ayer ha muerto mi pájaro.「昨日私の小鳥が死んでしまった」

ところで英語ではどうだろう。英文法ではHe has died yesterday.は間違いで、He died yesterdayとしなければならぬ、とされている。同僚の英国の先生にもお聞きしたことがあ



るが、やはり前者のようには言わないそうだ。ところが、これも Google で検索すると “has died yesterday” は 27,700 件もヒットするのだ。この中には当然 non-native speaker が書いた文も含まれるだろうから数字を鵜呑みにはできないが、“has died” が 1,740,000 件なので 1.6% を占めている。少数には違いないが、これも存在感のある数値だ。

日本語の「...てしまう」（たとえば「小鳥が死んでしまった」）は、確実に終えてしまったことや（「私は宿題をしてしまった」）、予期しない、取り返しのつかない結果（「兄は切符をなくしてしまった」）を示す。どちらも現在の自分の気持ちに深く関わっている。そうでないと使えない。たとえば、現在の自分の気持ちに深く関わることなく単に終了したことだけを示すために「私たちは将棋をしてしまった」や「兄は切符を買ってしまった」と言うのは、変だ。一方、スペイン語の現在完了はこのようなケースでも使えるが、それでも単に「過去の出来事が現在に関わる」というよりも「過去の出来事が＜話者の現在の心理＞に関わる」としたほうがよいだろう。そうでなければ、点過去で済ませてしまうことだろう。現在完了は、過去に終了したことを客観的に示す点過去とは違って、話者の現在の気持ちを主観的に表現する。その主観性がとくに強く表れたときは、たとえ過去を示す副詞があろうとも現在完了で表現してしまうのだ。アカデミーの文法書は＜話者の現在の心理＞という要因を補足的に取り上げているが、むしろ本質的なことなのではないだろうか。

授業では一定の基本的なルールを教えるべきか、それとも複雑な現実の世界をありのまま教えるべきか、いつも迷う。私は 1 年生（初級）の段階では基本的な用法を中心にして、2 年生（中級）になったときに視野を広げて様々な現実の世界を見たらよいと思う。しかし、前者が不正確であってよい、というわけではないので、常に補足説明の情報は適切に流したい。そのためにも、現在の TIC の発達には目を離せない。これは現在完了形ではなくて、現在進行形である。

（上田博人）